

助言者講評

神奈川県立山北高等学校校長 多田 功

みなさん、こんにちは。

山北高校、校長の多田功です。

先ほどの吉田島高等学校 PTA の皆様、活動報告と取組のすばらしいご発表をありがとうございました。講評という形で少し述べさせていただきます。

発表の中でも学校紹介がありましたが、吉田島高校は、創立118年を迎える、歴史と伝統のある学校です。足柄上郡農林学校、県立農林高校、県立吉田島農林高校などと校名を変え時代とともに変遷を重ねてきました。

平成22年には、県立吉田島総合高校へと校名変更し、単位制総合学科高校となりました。

平成29年には、校名が現在の県立吉田島高校となり、都市農業科、食品加工科、環境緑地科の三科に改編されました。さらに平成31年には県立高校では唯一の家庭科の学科、生活科学科が実習施設とともに併置されて、現在に至っています。

昨年、地区の校長会で吉田島高校が会場になった際も、岩崎校長先生が直々にご案内をしてくださいました。すばらしい施設に圧倒されました。ここで学べる生徒さんは本当にめぐまれているなあと思いました。このように、歴史と伝統、また地域の人々に支えられながら、農、食、環境、健康に関する、まさに、いのちの教育活動を実践されております。118年目を迎えることに改めまして、その教育活動に敬意を表するものです。

さて、PTAの皆さんの発表についてですが、「実りある 楽しい 活動を目指して」というテーマを掲げた発表でした、まず、毎年5月の実行委員会で、各委員会で年間スローガンということで、目標を立てられているところがまず、すばらしいなあ、と思いました。またPTA活動の本来の魅力と価値を見いだす工夫がなされ、一方では打合せのスリム化・見える化などの工夫をされていました。本部の皆様の活動は多岐にわたり、大変ですが、それを楽しんでやっておられました。

なかでも、演習林のある黒ヶ畠寮での研修企画は、広大な敷地を有し、吉田島高校ならではの強みを活かす活動になっているなあと思いました。

学年委員会の皆さんには、挨拶運動、ワンコイン

活動の開催、地域清掃の参加を通じて、楽しみながら、子どもたちの成長を見ることができ、保護者同士の情報交流の機会にもなっていると感じました。成人委員会の皆さんには、バスの研修旅行の企画や、正月飾り付け教室の開催など、まさに保護者同士の親睦交流を意欲的に楽しんでおられました。広報委員会は、年二回の広報誌の発行に向けて、計画的に実行され、忙しい中でも意欲的に取り組まれていると感じました。

このように、学校と地域、そして保護者と教職員が、一体となって協力し合い、楽しみながら実りのあるPTA活動を続けることは、学校と家庭の連携をさらに深め、子どもたちへのよりよい支援を提供するために不可欠だと思います。

PTA活動を、単なる学校行事のサポートだけにとどめず、会員の皆様のコミュニケーションやスキルアップの場としても重要で、会員一人一人が、自身の得意分野を活かすことで、PTA組織全体が活性化していく、吉田島高校の発表を拝聴して、このことを改めて確信いたしました。

全国な課題として、PTAの加入率が下がっている中、100%の加入率というのは、もはや、当たり前ではない時代に来ています。各校におかれましても、入会を迷っていらっしゃる方への対応や説明で苦慮されているのではないかでしょうか。さらに、役員の安定的確保などに各校の指名委員会さんなどが、様々な工夫を講じていることと思います。

吉田島高校のように、アンケートの文言そのものの検討を加えて、さらに年間計画を盛り込むなど、

また、役員というハードルを下げて、ボランティアという形で取り込みながら活動をしていくという手法は大変参考になりました。

最後になりますが、保護者が学校に関わっていることを子どもたちが感じることで、安心感や誇りを持つことにもつながります。皆様の熱意ある実りある活動をさらに発展させ、地域社会に貢献していくことを期待しております。

吉田島高校の皆様、貴重なお話をありがとうございました。今後ますますのPTA活動の発展とご活躍を祈念いたしまして、講評とさせていただきます。ありがとうございました。